

彫刻・絵画の調査

美術工芸研究室

仏像納入文書の調査研究 昨年度によって調査作例は 100 件に達し、ほぼ調査段階を終了したので、今年度以降はもっぱら資料の整理・解説に当り、その資料集成を期して編集・出版準備にかかった。また、長谷寺本尊十一面観音像の調査にともない、同随侍像である赤精童子・難陀龍王両像から納入品を確認、これについても調査し、資料整理を行なった。

南都造像史の研究 昨年度に継続して南都の平安・鎌倉時代の作例の調査に当り、特に興福寺旧西金堂諸仏と、同寺中金堂所在の薬王・薬上菩薩像、四天王像等を調査するとともに、同寺の沿革と諸像の焼失・復興・移動について資料を検討した。また法隆寺伝法堂の平安諸仏および同寺の鎌倉彫刻についても調査した。

写真測量による仏像実測調査 平城調査部計測修景室と協同し、今年度は正倉院伎楽面について補足的な実測調査を行ない、第 1 次・第 2 次調査の欠を補い資料を整備した。また、従来の仏像写真測量成果にもとづき、薬師寺本尊・唐招提寺本尊・平等院鳳凰堂本尊の実測図について、各像に共通する比例権衡 (Canon) を究明し、これを応用して創建期東大寺大仏の比例的復原を試みた (2 ページ)。なお、興福寺仏頭 (旧山田寺仏頭) 実測図をもとに、2 分の 1 模型 (英国 Fairey Surveys Ltd.) を試作して、その成果を検討した (第 1 図)。

その他の彫刻調査 奈良県吉野町の依頼で、龍門・中龍門・国栖・中莊の各地区と、吉野山地区の諸社寺の彫刻を調査し、国栖の大蔵神社の男・女神像 (鎌倉時代) 3 軀を確認した。

南都仏教絵画の研究 昨年度につづいて、中世の仏教絵画と南都高僧像を中心に調査研究をおこなった。主な調査寺院は薬師寺、園城寺、東大寺、宝山寺、西大寺、醍醐寺、曼荼羅寺などである。なお本年は、東大寺について、『東大寺絵画調査目録』を作製した。

このほか、本テーマに関して、四日市市および吉野町の絵画調査を、依頼によって行なった (6 ページ)。

美術品複製のための試験的研究 絵画・書跡の資料保存と基礎研究とのために、無収差原寸撮影の方法の開発を試みた。メーカーの協力をえて、西大寺仁王会本尊像と京北班田図の二点について、それぞれ原寸と縮尺の無収差写真を撮影し、前者の合成により原画の複製を作った。この試作は、単色写真においては相当の成果をえたが、多色写真はなお改善の余地が多い。

第 1 図 興福寺仏頭模型

建造物研究室では、昭和43年度から奈良県橿原市今井町の民家調査を実施している。これまでに町全体のほぼ8割にあたる地域で調査を終え、残るのは東辺の一部となった。この民家調査は、民家を個々にとりあげるのみでなく、今井町という歴史的都市のなかでの住空間をも問題としているのであって、将来の都市研究あるいは歴史的都市保存再開発構想に対して基礎資料を提供するものとする。なお本年は美術工芸・歴史両研究室の参加をえた。

Ⅰ 調査および資料

調査項目 今井町でこれまで行なった調査項目をあげよう。

1. 民家調査 悉皆調査を目標とし、各戸の現状平面図の作成・復原の見通し・建築年代推定・保存状況などの評価・住み方の調査・庭園の調査を行う。主要民家についてはさらに復原調査など精査する。
2. 町並調査 町並にそった各家の正立面の写真撮影（ニッコールUD20mm使用）。航空写真・現状調査などから町並の立面図作成。屋根伏図作成。
3. 寺社調査 建築・石造物・古文書・絵画など文化財の調査。
4. 文献調査 都市・建築関係資料の収集。
5. 都市調査 町割・道路交通・上下水・防災・施設・土地家屋の所有関係・利用状況などの調査。
6. 意識調査 住民の町・住宅の保存などに関する意識調査。職業・家族構成などに関するアンケート調査（奈良女子大学担当）。
7. その他 住民の交際・講その他社会学的調査など。

上記の各項目のうち、これまでは民家調査を主軸としてすすめており、この部分はかなり

第1図 今 井 町 平 面 図 (部分)

進展した。一方、都市調査は緒についたばかりであるが、今後の主要なテーマとなろう。

都市調査の内容は、計画技術的なものから社会・経済的なものまで多方面にわたる。歴史的都市調査の場合、その項目は他の場合とはおのずから異なろう。上記の調査項目はわれわれがこれまでの調査の経験によって得たものであり、調査の進展にしたがって当然、修正され、整理されるべき性質のものである。

作成図面 調査はまず現状を把握し、復原的考察や歴史的調査を加えながら、今井町の民家や都市の性格を究明していく。ところで、これまでの調査の結果として、作成される図面や今後、調査を重ねながら作成されるはずの図面は各種多様であるが、主要な図面として、まず最初に次のものを考えている。

1. 今井町平面図 (現状・復原) 各戸の間取りまで記入するもので、もっとも基本的な資料となる。
2. 今井町町並図 (現状・復原) 主要な町並の立面図の作成。
3. 今井町復原図・変遷図 成立時・江戸時代・明治時代・周辺の都市化がすすむ以前から現在におよぶ。

以上の調査研究、図面の作成を通じて、われわれはなにを考えるか。今井町の性格を究明するとともに、町全体として古い姿をよく残すこの町を、住みよい歴史的都市として、いかに保存再開発するかという問題が、つねに意識のうちにある。都市は人々が生活し、つねに

新陳代謝しており、強く生きていくことに意味があるのだから、古い姿を残す（江戸時代を目標とする）ためといって、人々が住めないようなゴーストタウンとなる凍結保存の方法はこのましくない。

われわれはひとつの大きな目標として、『今井町保存再開発構想計画』をかかげ、今後の調査研究をすすめたいと考えている。これには各戸の復原整備・改造計画から、都市レベルの計画——道路交通・公園緑地・施設・設備環境・防災・産業計画——がもりこまれる。当然この構想計画は、今井町の範囲にとどまらず、橿原市・奈良盆地の計画、大阪・京都などとの関係、さらには近畿圏においてしめる位置を考慮して行なわれるべきものである。

Ⅱ 都市としての今井町

今井町は奈良盆地の南端に近いところに位置し、東を飛鳥川で限られるほかは、周囲を水田でかこまれる。周辺の水田は条里制の痕跡をよく残している。航空写真・千分の一の地図でみると、今井町古図にみる今井領は大和国京南路西条里の25条と26条の1里・2里の一部をしめており、主要部の広さは東西7町・南北4町である。

今井町はもと東西南北の4カ町とこの東側に続く新町・今町とあわせて6カ町からなっていた。新町・今町はのちの拡張とするのが通説であるので、当初の今井町として成立したとみられる東西南北の4カ町の部分に注目してみよう。これはさきにのべた今井領のちょうど中央部にあって、東西3町、南北2町（25条7・18・19坪、26条12・13・24坪）をしめ、この外側に土居（藪地）をつくり、さらに外側を濠がめぐっていた姿が想定されるのである。新町・今町はこの東側、飛鳥川までの間につくられ、また北町は北部を拡張し、古図にみられるような今井町が成立したのであろう。古文書や古図はすべて拡張部をふくんでいるから、この拡張の時期はかなり早かったと考えられる。

町割 町割はほぼ格子状に行なわれている。各ブロックの大きさは一様でない。大きなブロックは90m×60m、小さなブロックは40m×35mほどである。当初の町と拡張部とで町割が異なる。前者では各ブロックは東西が長く、後者は南北が長い。家並もまた異なっている。すなわち前者では東西方向の道路が主要なもので、各家はこの道路に面して正面をつくり、南北方向の道路には側面をみせる。これに対し後者は東西方向ばかりでなく、南北方向の道路に面しても正面をつくっているので、町の景観が異なる。

町割は格子状といっても機械的にわるのではなく、三叉路やわずかに喰違う十字路をつくり、また直線の道路にもゆがみをもたせ、変化をつけている。道路から町の外部を直接見通せるところはほとんどなく、建物が視線をうけとめ独特なビスタを作る。

町割と条里制との関係については、町自体が条里にのっていることのほか、町の中央を東西に通る道路が条里の境界線とほぼみあう位置にある。ただ、この道路も今井町と他に結ぶ幹線道路でなく、古図によると、ここから4町北を東西に走る大坂伊勢道があり、これが幹線道路とみられ、今井町の各道路は通過交通とはならなかったらしい。他の道路にも条里と

今 井 町 の 調 査 (3)

直接関係すると断定できるものではなく、むしろ町内部では独自の町割が行なわれ、外部とのとりつき口で条里にあわせて連絡したとみるのが妥当であろう。

建築 今井町の民家は瓦葺で切妻造平入のものが多く、道路に面して、連続した平の屋根面をみせている。交叉点など角地にたつ家は入母屋造として変化をつけるが、家並全体の意匠はおとなしい。

町内には寺院4、神社2がある。この町では城下町で行なわれていた武家地・町人地・寺社地といったゾーニングはみられない。また町内（環濠内）には寺社以外の公共建築や都市施設はほとんどなく、これらが新しくつくられる時は環濠外になる。

商工業 現在の今井町は、盛時とくらべれば商工業を営むものは少く、商工業の町とはいいがたい。交通の便がよいこともあって、大阪方面への通勤者が多く、ベッドタウンとしての性格をもつ。商店などは地元住民を対象とした小規模なものが大部分をしめている。食料品・青果物・酒・調味料・菓子・燃料・衣料品・化粧品・クリーニング・理髪・美容・文房具店など、日常生活に必要な商店は各々5軒前後ある。産業として、注目すべきものは衛生材料（生理帯・オシメカパー等）の加工で、年間の売上額は20億円ほどで、全国シェアの60%をこえるという。このほか印刷屋・薬売などが比較的多い。

むすび 今井町の調査を通じて、都市とはなにか、都市計画とはなにか、都市はどのように生きているかといった大きな問題があることを痛感する。都市史の将来は無限に広がっている。それにしても、今井町は古い民家と町並・町割をよく残す点、全国的にみても有数の歴史的都市であり、都市研究のうえで重要な位置をしめるであろう。

（宮沢智士）